

弘, 田尻久雄, 池上雅博. 早期胃癌研究会症例特異な肉眼型を呈し, 通常内視鏡と拡大内視鏡による深達度診断が乖離した早期大腸癌の1例. 胃と腸 2012; 47(4): 579-85.

2) Mori N, Imazu H, Futagawa Y, Kanazawa K, Kakutani H, Sumiyama K, Ang TL, Omar S, Tajiri H. EUS-guided rendezvous drainage for pancreatic duct obstruction from stenosis of pancreatojejunal anastomosis after pancreatoduodenostomy. Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 2012; 22(4): e236-8.

3) Dobashi A, Goda K, Yoshimura N, Sumiyama K, Toyozumi H, Saito S, Kato T, Ishikawa H, Yanaga K, Tajiri H, Ikegami M. Early duodenal adenocarcinoma resembling a submucosal tumor cured with endoscopic resection: a case report. J Med Case Report 2012; 6(1): 280.

神 経 内 科

教授：井口 保之	脳血管障害
教授：岡 尚省	自律神経
准教授：栗田 正	神経生理
講師：松井 和隆 (全日空へ出向)	末梢神経病理
講師：鈴木 正彦	神経核医学
講師：谷口 洋	嚥下障害
講師：豊田千純子	変性疾患
講師：河野 優	変性疾患
講師：仙石 錬平	神経病理

教育・研究概要

I. 変性疾患に関する研究

1. パーキンソン病 (PD) 患者の心血管系自律神経障害に関する研究

心臓交感神経機能を反映する ^{123}I -MIBG 心筋シンチグラフィと血行力学的自律神経機能検査法である Valsalva 試験により PD の心血管系自律神経機能障害を検討した。PD 患者では起立性低血圧のない未治療の初期から ^{123}I -MIBG 心筋シンチグラフィで異常を示し, また心血管系の自律神経機能障害も認めることを明らかにした。

2. PD 患者の消化管自律神経機能障害に関する研究

PD 患者では約 90% の症例で消化管機能障害を認め, 早期から出現する自律神経機能障害の一つである。PD の消化管自律神経機能障害に対する Nizatidine の効果を Gastrointestinal Symptom Rating Scale (GSRS) を用いて評価し検討した。Nizatidine は PD の消化不良, 下痢, 便秘症状を改善し, とくに心血管系自律神経機能障害の軽度の症例で有効であった。

3. PD 患者における幻視と視覚情報処理機能の関係に関する神経生理学的検討

PD 患者ではしばしば幻視を認めるが, 幻聴は極めて少ない。認知機能障害の明らかでない PD 患者における幻視と視覚情報処理障害の関係を相貌刺激による視覚性事象関連電位と聴覚性事象関連電位を用いて検討した。この結果, 幻視を伴う PD 患者では幻視の無い患者に比べ相貌に関する視覚情報処理が聴覚情報処理に比べて選択的に障害されていることが判明した。

4. 25-hydroxyvitamin D ならびにビタミン D 受容体遺伝子多型と PD 重症度との相関解析

葛飾医療センターにおける PD 患者 137 名を対象とし、25OHD (ng/ml) と 1,25OHD (pg/ml) を測定し、重症度、ビタミン D 受容体 (VDR) とビタミン D 結合タンパク (GC) の SNPs との関連について検討した。PD 患者の約半数で 25OHD は低値であったが、1,25OHD は全例正常範囲であった。また 25OHD が低値を示すほど重症度は高値であった。一方 VDR FokI CC genotype では重症度が有意に低かったが、GC SNPs と重症度との相関はなかった。

5. 日本人向け嗅覚テストによる PD, 多系統萎縮症 (MSA), 進行性核上性麻痺 (PSP) の鑑別診断法の確立

PD, MSA, PSP の 3 疾患は、パーキンソン徴候が病初期に極めて類似するため鑑別診断が困難である。odor stick identification test for Japanese (OSIT-J) は日本人の嗅覚障害の検出に開発された簡易かつ非侵襲的な検査法である。本研究では OSIT-J をこの 3 疾患群で施行。PD では軽症例でも高度嗅覚低下があるが、MSA と PSP ではほぼ正常であることが示された。

6. PD 患者の Parkinson Fatigue Scale (PFS-16) を用いた疲労と臨床的要因の検討

PD 患者 79 例 (年齢 70.3 ± 9.6 歳, 男性 37 名, 女性 42 名, 罹病期間 5.9 ± 4.4 年) で PFS-16, 年齢, 罹病期間, Unified Parkinson's Disease Rating Scale (UPDRS), 起立試験での血圧変化 (Δ systolic blood pressure (SBP)), ^{123}I -MIBG 心筋シンチグラフィ, Coefficient variation of RR intervals (CVR-R) を評価した。akinetic rigid type では運動症状以外でも Tremor-dominant type に比べて疲労や自律神経障害が強く, 異なる病態である可能性が示唆された。

7. PD 関連疾患の嗅球の形態学的検討

PD 関連疾患患者に嗅覚検査と頭部 MRI, 心筋シンチグラフィを実施し, 嗅球体積測定が PD 関連疾患の鑑別に有効かを検討した。PD では, 他の PD 関連疾患と比し, 有意に嗅球体積が減少する事が判明した。

8. MSA における声帯外転障害と嚥下障害の発症時期に関する検討

MSA は進行すると声帯外転障害と嚥下障害を呈する。嚥下障害に対しては胃瘻を作成することが多いが, 声帯外転障害が存在すると胃瘻作成時のリスクとなる。これらの発症時期に関して喉頭内視鏡を用いて検討したところ, 胃瘻を作成時に, 声帯外転障害を既に呈している例が多かった。

9. アルツハイマー病 (AD) 脳におけるアミロイドプローベ $^{[11\text{C}]}$ PIB 及び $^{[11\text{C}]}$ BF227 の比較検討

2 種の PET アミロイドプローベ, $^{[11\text{C}]}$ PIB, $^{[11\text{C}]}$ BF227 の AD 脳における集積特徴を比較した。AD 脳における $^{[11\text{C}]}$ PIB, $^{[11\text{C}]}$ BF227 は共にアミロイド蛋白に集積する特徴を持つが, これらの集積は, 同一 AD 脳において, 感度だけではなく質的にも異なり, 両剤の集積の意義は同一ではないと考えられた。

10. 千葉県東葛北部地域における筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者の予後に関する実態調査 (医学生による調査)

平成 18 年より 6 年間に柏病院神経内科を受診した ALS 患者 51 名の初発症状, 進展様式, 予後について検討した。下肢症状を初発とする患者は最も進行が遅く, 嚥下障害で発症した患者は早期に呼吸困難に至ることが判明した。

II. 脳血管障害に関する研究

1. 急性期脳梗塞治療加速のための薬物超音波併用次世代普及型低侵襲システムの開発

超急性期脳梗塞に対し rt-PA 静注療法と超音波連続照射を併用した場合 (超音波併用療法), 良好な転帰が期待できる。より簡便で安価な貼布型超音波探触子を開発中である。

2. rt-PA 静注療法を実施した超急性期脳梗塞例の転帰に関連する因子解析

神経症候が消失する TIA に引き続き脳梗塞を発症した症例に対して t-PA 静注療法を実施した場合に, t-PA 静注療法の有効性と安全性は不明である。現在までに 13 例に対して rt-PA 静注療法を実施し, うち TIA は 3 例に認めた。3 例中 2 例は良好な転帰をたどっており, warning sign としての TIA の重要性が示された。

3. Fabry 病に合併する脳血管障害実態調査 (前向き登録研究)

DNA 医学研究所と協力し, Fabry 病に発症する脳血管障害, 心疾患, 腎疾患など全身血管病を網羅的に評価すべく登録データベースの整備, 解析方法の検証を進めている。

4. 経頭蓋カラードプラ断層法 (TC-CFI) を用いた中大脳動脈 (MCA) 循環動態と大脳白質病変グレードとの関連についての検討

白質病変の重症度が上がるにつれて, MCA の拍動係数 (PI) が上昇し拡張末期血流速度 (EDV) が低下しており, MCA の PI と EDV を評価するこ

とで、白質病変の存在を予測し得る可能性が示唆された。

5. 一過性脳虚血発作 (TIA) における拡散強調画像陽性 (DWI) 例の検討

DWI 陽性例と陰性例間における臨床的特徴の差異は未だに明確にはされていない。よって、TIA・DWI 陽性例の臨床徴候特徴に関する検討を行った。TIA・DWI 陽性例では有意に BUN/Cr、血糖、BNP が高値であった。

Ⅲ. 末梢神経障害に関する研究

1. 糖尿病神経障害の早期発見に関する研究

糖尿病性ポリニューロパチー (DPN) では末梢神経の最遠位部である足部から障害が始まる。足部の感覚症状や自律神経症状が無い糖尿病患者における足部の診察と神経伝導検査結果を検討し、潜在的な神経障害が比較的高率に存在することが判明した。

Ⅳ. 筋疾患

1. 全身型重症筋無力症 (MG) 患者の周術期におけるタクロリムス投与時期の検討

MG 全身型かつ胸腺摘出術を実施する症例でタクロリムス投与時期を検討した。タクロリムス投与により、術前においても有用で明らかな合併症なく手術を遂行することができる。

Ⅳ. 発作性疾患に関する研究

1. 片頭痛の病歴を有する患者のめまいに対するバルプロ酸の効果

片頭痛の病歴を有し、加齢とともに頭痛発作は消褪したものの、めまいが残存する患者を対象に片頭痛予防薬であるバルプロ酸の有用性を後ろ向き調査で検討した。この結果、該当する 2 症例で本薬有用性が確認された。

Ⅴ. 基礎研究

1. 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) における運動神経細胞の特異的脆弱性に関する検討

ALS における運動神経細胞の選択的脆弱性に関するグリシン伝達機構に関して研究を立案した。グリシン伝達の加齢性変化に関して、パッチクランプ法を用いてアプローチを行い、加齢とともに、グリシン後電流は大きくなるが、グリシン $\alpha 3$ がシナプス前にも影響を及ぼし、放出機構を調整している可能性が示唆された。

2. 皮質脊髄路の随意運動以外の機能についての

研究

皮質脊髄路は随意運動以外に、感覚系と思われる線維群が豊富に存在することが知られている。電気生理学的手法を用いてこの機能とその障害について検討する。

3. HDL 機能アッセイの樹立

脂質異常患者に bezafibrate (BZA) または ethyl icosapentate (EPA) を投与し、コレステロール引き抜き能 (efflux) の検討を行った。BZA 群は有意にコレステロール引き抜き能を上げ、EPA 群では変化がなかった。

4. 脂質代謝に関連する候補遺伝子の解析

コレステロール逆転送に関与する ABCA1 トランスポーターの分解抑制を示す RhoA 活性機能を持つ PDZRhoGEF を研究対象として、microRNA を作製し、ノックダウンによる ApoA1 efflux の低下、*in vivo* RCT の変化を確認した。

「点検・評価」

当科の大きな特色は、急性期の脳血管障害や比較的慢性疾患である変性疾患など多岐にわたる疾患に対し、最先端の臨床・基礎研究を行っていることである。さらに、いずれの疾患も症例を多く有することから、患者のニーズにある臨床研究を日々行っている。

変性疾患においては、現在、最も注目が集まっている PD 患者における non-motor symptom (自律神経障害、嗅覚障害、幻視・幻聴、易疲労感) に早期から着目し、臨床研究を重ねてきた。具体的には、自律神経障害と画像評価の相関、自律神経障害と疲労度の相関、幻視のみならず幻聴の有無、嚥下障害の有無などについての検討を詳細に行い、その研究成果は国際・国内学会の発表、さらには国際・国内一流雑誌に論文として刊行されている。特に、ビタミン D 受容体遺伝子多型のうち Fok I T/T 型または Fok I C/T 型を持つ患者が、ビタミン D3 を摂取することで、高カルシウム血症を引き起こすことなく、短期的に PD の症状を安定化させる可能性を世界で初めて証明し、PD におけるビタミン D の重要性を認識させる重要な成果を世界に発信した。

脳血管障害に関しては、当科のみでなく、脳神経外科、救急診療部、集中治療部、リハビリテーション科など各診療科と連携した「脳卒中チーム診療」を遂行している。一例一例を大切に診療するとともに、当科独自の登録データベースを作成し、大規模臨床研究にも対応できるような体制を構築している過程である。実際に、2012 年末から非心原性脳梗

塞急性期における抗血小板薬多剤併用療法（アスピリン＋シロスタゾール）の有効性と安全性に関する多施設共同ランダム化比較研究（Acute Dual Study: ADS）に参加し、急性期非心原性脳梗塞における抗血小板療法のエビデンスの確立を検討中である。

末梢神経障害は、糖尿病性ニューロパシーに関して詳細な検討を行い、潜在性の神経障害が比較的高率に存在することを明らかにし、学会報告を行った。

筋疾患、特に重症筋無力症の症例数は、関東のみならず全国的にもトップレベルの症例数を有している。現在、タクロリムスの術前・術後投与の有効性・投与時期に関する検討を行っている。

基礎研究に関しても、当大学の神経生理学教室や再生医学研究部、さらには国内・国外の一流の研究所の御協力を頂き、最先端の研究を遂行している。

最後に、学生教育に関しても述べさせていただきたい。当科では、医学生を説教的に臨床研究の一員として受け入れ、学生のリサーチマインドを高める教育を目指している。具体的な成果として、2012年度は、柏病院の当科医局員と同部に配属された医学生により千葉県東葛北部地域における筋萎縮性側索硬化症患者の予後に関する実態調査を行い、医学生により第30回神経治療学会に報告した。

以上のごとく、今後もさらに研鑽を積み、幅広い疾患に関する臨床・基礎研究を継続し、得られた結果を世界に向けて発信していく予定である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Kono Y, Omoto S, Sengoku R, Yaguchi H, Sonoo M, Inoue K, Mochio S. Multifocal conduction block in a patient with sarcoid neuropathy: successful treatment with intravenous immunoglobulin. *Inter Med* 2013; 52(9): 999-1002. Epub 2012 Mar 1.
- 2) Mitsumura H, Yogo M, Sengoku R, Furuhashi H, Mochio S. Evaluation of very early recanalization after tPA administration monitoring by transcranial color-coded sonography. *Perspectives in Medicine* 2012; 1(1-12): 331-3.
- 3) Shimoyama T, Iguchi Y, Kimura K, Mitsumura H, Sengoku R, Kono Y, Morita M, Mochio S. Stroke patients with cerebral microbleeds on MRI scans have arteriolosclerosis as well as systemic atherosclerosis. *Hypertens Res* 2012; 35(10): 975-9.
- 4) Iguchi Y, Kimura K, Sone K, Miura H, Endo H, Yamagata S, Koide H, Suzuki K, Kimura T, Sakurai

M, Mishima N, Yoshii K, Fujisawa H, Ebisutani S; Kurashiki Stroke Registry investigators. Stroke incidence and usage rate of thrombolysis in a Japanese urban city: the Kurashiki stroke registry. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 2013; 22(4): 349-57. Epub 2011 Nov 2.

- 5) Suzuki M, Yoshioka M, Hashimoto M, Murakami M, Noya M, Takahashi D, Urashima M. Randomized, double-blind, placebo-controlled trial of vitamin D supplementation in Parkinson disease. *Am J Clin Nutr* 2013; 97(5): 1004-13. Epub 2013 Mar 13.
- 6) Hashimoto M, Yoshioka M, Sakimoto Y, Suzuki M. A 20-year-old female with Hirayama disease complicated with dysplasia of the cervical vertebrae and degeneration of intervertebral discs. *BMJ Case Rep* 2012 Nov 9.
- 7) Shimoyama T, Shibazaki K, Kimura K, Uemura J, Shiromoto T, Watanabe M, Inoue T, Iguchi Y, Mochio S. Admission hyperglycemia causes infarct volume expansion in patients with ICA or MCA occlusion: association of collateral grade on conventional angiography. *Eur J Neurol* 2013; 20(1): 109-16.
- 8) Umehara T, Oka H, Toyoda C, Mochio S, Pearls & Oy-sters: trigeminal neuropathy associated with herpes labialis. *Neurology* 2012; 79(19): e173-5.
- 9) Shimoyama T, Iguchi Y, Kimura K, Mitsumura H, Sengoku R, Kono Y, Morita M, Mochio S. Stroke patients with cerebral microbleeds on MRI scans have arteriolosclerosis as well as systemic atherosclerosis. *Hypertens Res* 2012; 35(10): 975-9.
- 10) 近澤仁志, 谷口 洋, 山崎ももこ, 八代利伸, 石井正則. 前庭神経炎急性期におけるSPECTを用いた脳血流の解析. *Equilibrium Res* 2012; 71(2): 71-7.
- 11) 近澤仁志, 谷口 洋, 山崎ももこ, 八代利伸, 石井正則. 前庭神経炎症例における脳血流の経時的変化の検討. *耳鼻展望* 2012; 55(6): 410-6.
- 12) 三村秀毅, 小松鉄平, 宮川晋治, 仙石鍊平, 井口保之. 眼で見る神経内科 血管原性塞栓症リスクの高い線維筋性異形成の血管異常所見 carotid artery web. *神経内科* 2013; 78(2): 246-8.
- 13) 仙石鍊平, 坊野恵子, 松島理士, 荒川秀樹, 持尾聡一郎. 急激な体幹失調の増悪を呈し, susceptibility weighted imagingが診断に有用であった脳硬膜動脈脈の1例. *神経治療学* 2012; 29(4): 435-9.

II. 総 説

- 1) 梅原 淳, 谷口 洋, 河野 優, 岡 尚省, 持尾聡一郎. 【脊髄疾患の新しい話題】家族性脊髄癒着性くも膜炎. *神経内科* 2012; 77(1): 92-7.

- 2) 谷口 洋, 武原 格 (東京都リハビリ病院), 千年俊一 (久留米大学). 症例 私の治療方針 (series 03) 耳痛の後に第Ⅶ, Ⅷ, Ⅸ, X, XI脳神経麻痺を呈した男性例. 嚥下医学 2013; 2(1): 15-9.
- 3) 仙石鍊平. パーキンソン病の非運動症状. ドクターサロン 2012; 56(10月): 735-8.
- 4) 仙石鍊平. パーキンソン病の Visual View パーキンソン病と嗅覚障害. Fronti Parkinson Dis 2012; 5(2): 84-7.
- 5) 谷口 洋. 【診療所における嚥下内視鏡検査の実際】神経筋疾患における嚥下内視鏡検査所見. ENTONI 2012; 147: 24-32.
- ### III. 学会発表
- 1) Mitsumura H, Omoto S, Sengoku R, Takagi S, Kono Y, Morita M, Furuhashi H, Mochio S. Ultrasonographic evaluation of acute ischemic stroke patients with radiation-induced carotid artery atherosclerosis. 17th Meeting of the European Society of Neurosonology and Cerebral Hemodynamics. Venice, May.
- 2) Sengoku R, Matsushima S, Bono K, Sakuta K, Yamazaki M, Miyagawa S, Komatsu T, Omoto S, Takagi S, Mitsumura H, Morita M, Mochio S. Establishment of differential diagnosis of Parkinson-related diseases by means of brain magnetic resonance imaging. Movement Disorder Society's 16th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. Dublin, June.
- 3) 梅原 淳, 谷口 洋, 豊田千純子, 岡 尚省, 持尾聰一郎. 家族性癒着性くも膜炎の臨床的特徴の検討. 第53回日本神経学会学術大会. 東京, 5月.
- 4) 谷口 洋. 神経筋疾患における嚥下障害の特徴と対策 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症. 第36回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会. 京都, 3月.
- 5) 森田昌代. てんかんと自律神経症状 発作時の自律神経症状 患者アンケートによる検討. 第65回日本自律神経学会総会. 東京, 10月.
- 6) 森田昌代, 坊野恵子, 山崎幹大, 作田健一, 宮川晋治, 小松鉄平, 鈴木可奈子, 大本周作, 仙石鍊平, 三村秀毅, 持尾聰一郎. Neuromyelitis optica spectrum disorders 急性期における発熱の意義についての検討. 第53回日本神経学会学術大会. 東京, 5月.
- 7) 森田昌代, 鈴木可奈子, 仙石鍊平, 三村秀毅, 上山勉, 持尾聰一郎, 井口保之. 悪心, 嘔吐, 不安, 恐怖, 焦燥感を発作症状とした辺縁系前頭葉てんかん発作重積の22歳女性例. 第65回日本自律神経学会総会. 東京, 10月.
- 8) 谷口 洋. 神経筋疾患における嚥下内視鏡検査. 第28回日本静脈経腸栄養学会学術集会. 金沢, 2月.
- 9) 三村秀毅, 大本周作, 仙石鍊平, 森田昌代, 古幡 博, 持尾聰一郎. 経頭蓋カラードブラ断層法を用いた中大脳動脈血流パラメータと大脳白質病変グレードの関連. 第37回日本脳卒中学会総会. 福岡, 4月.
- 10) 持尾聰一郎, 仙石鍊平, 河野 優, 森田昌代, 三村秀毅, 高木 聡, 岡 尚省, 上山 勉, 大本周作, 鈴木可奈子, 宮川晋治, 小松鉄平. Parkinson 病患者の振戦の治療に関する研究: zonisamide の有用性 (第二報). 第53回日本神経学会学術大会. 東京, 5月.
- 11) 作田健一, 仙石鍊平, 山崎幹大, 坊野恵子, 鈴木可奈子, 上山 勉, 三村秀毅, 河野 優, 森田昌代, 荒井あゆみ, 古幡 博, 井口保之. 急性期脳梗塞患者における右左シャントの中大脳動脈と椎骨動脈での検出率の比較. 第38回日本脳卒中学会総会. 東京, 3月.
- 12) 鈴木可奈子, 仙石鍊平, 河野 優, 持尾聰一郎. グラン・バレー症候群における痛みの検討. 第53回日本神経学会学術大会. 東京, 5月.
- 13) 仙石鍊平, 宮川晋治, 大本周作, 高木 聡, 三村秀毅, 森田昌代, 持尾聰一郎, 井口保之. 二重濾過血漿分離交換が著効した視神経脊髄炎の臨床的解析. 第30回日本神経治療学会総会. 北九州, 11月.
- 14) 仙石鍊平, 松野博優, 宮川晋治, 山崎幹大, 森田昌代, 榎原隆次, 持尾聰一郎, 井口保之. 筋萎縮性側索硬化症の自律神経障害-アンケート調査-. 第65回日本自律神経学会総会. 東京, 10月.
- 15) 仙石鍊平. (教育セミナー3: パーキンソン病と自律神経障害) パーキンソン病の非運動症状 (嗅覚障害). 第65回日本自律神経学会総会. 東京, 10月.
- 16) 仙石鍊平, 松島理士, 宮川晋治, 小松鉄平, 坊野恵子, 作田健一, 山崎幹大, 三村秀毅, 森田昌代, 持尾聰一郎, 井口保之. パーキンソン病で萎縮する解剖部位の一つは嗅球である. 第6回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres. 京都, 10月.
- 17) 仙石鍊平, 松島理士, 坊野恵子, 作田健一, 山崎幹大, 宮川晋治, 小松鉄平, 三村秀毅, 森田昌代, 持尾聰一郎. パーキンソン病関連変性疾患の頭部 MRI を用いた鑑別方法の確立. 第53回日本神経学会学術大会. 東京, 5月.
- 18) 三村秀毅, 作田健一, 大本周作, 高木 聡, 仙石鍊平, 森田昌代, 古幡 博, 持尾聰一郎. 経頭蓋カラードブラ断層法を用いた頭蓋内椎骨動脈における右左シャント検索の有用性 (第二報). 第53回日本神経学会学術大会. 東京, 5月.
- ### IV. 著 書
- 1) 三村秀毅. 第5章: 症例編 4. アルテプラザーゼ静注療法における経頭蓋超音波モニタリング. 松尾 汎 (松尾クリニック) 監修. 超音波検査テクニクマスタ-: 頭部・頸部・胸部・上肢編. 大阪: メディカ出

版, 2012. p.284-9.

- 2) 仙石鍊平. I. Basic Neuroscience 2. 神経病理 1) パーキンソン病の嗅覚路所見. Annual Review 神経 2013. 東京: 中外医学社, 2013. p.17-21.
- 3) 谷口 洋. 4章: 神経疾患 ギラン・バレー症候群. 藤島一郎 (浜松市リハビリテーション病院) 監修. 疾患別に診る嚥下障害. 東京: 医歯薬出版, 2012. p.226-31.
- 4) 仙石鍊平, 持尾聰一郎. 20. 内科疾患に伴う神経障害 尿毒症. 水澤英洋 (東京医科歯科大), 鈴木則宏 (慶應義塾大), 梶 龍児 (徳島大), 吉良潤一 (九州大), 神田 隆 (山口大), 齊藤延人 (東京大). 今日の神経疾患治療指針. 第2版. 東京: 医学書院, 2013. p.1035-7.
- 5) 持尾聰一郎, 仙石鍊平. 1. 症候と鑑別診断 失神. 水澤英洋 (東京医科歯科大), 鈴木則宏 (慶應義塾大), 梶 龍児 (徳島大), 吉良潤一 (九州大), 神田 隆 (山口大), 齊藤延人 (東京大). 今日の神経疾患治療指針. 第2版. 東京: 医学書院, 2013. p.35-40.

V. その他

- 1) 鴨下桂子, 高野浩邦, 平井利明, 松井仁志, 田沼有希子, 佐藤佳世, 森本恵爾, 江澤正浩, 小曾根浩一, 飯田泰志, 青木宏明, 田部 宏, 栗田 正, 谷口 洋, 佐々木寛, 岡本愛光. 【卵巣成熟嚢胞性奇形腫】卵巣成熟嚢胞性奇形腫を合併した抗NMDAR抗体陽性脳炎の1例. 関東連産婦会誌 2012; 49(4): 675-8.
- 2) 渡邊信之, 平井利明, 谷口 洋, 栗田 正. 第IX・X・XI脳神経麻痺を呈した, Zoster Sine Herpete の67歳男性例. 第202回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京, 9月.
- 3) 仲長奈央子, 磯谷亮太, 平井利明, 谷口 洋, 栗田 正. 急性呼吸不全を呈したCIDPの67歳男性例. 第203回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京, 12月.
- 4) 五味 拓, 仲長奈央子, 平井利明, 谷口 洋, 栗田 正. 進行性の難聴, 運動失調, 認知症を呈し, HLA B-51陽性であった脳症の47歳男性例. 第204回日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京, 3月.

腎臓・高血圧内科

- 主任教授: 細谷 龍男 尿酸代謝・腎臓病学一般
 教授: 大野 岩男 尿酸代謝・腎臓病学一般・
 膠原病
- 客員教授: 栗山 哲 高血圧
(東京都済生会中央病院)
- 客員教授: 徳留 悟朗 高血圧
(東急病院)
- 客員教授: 山本 裕康 腎臓病学・腎不全・腎移植
(厚木市立病院)
- 准教授: 川村 哲也 腎臓病学一般, 特に, 糸球
 体腎炎の治療
- 准教授: 宇都宮保典 腎臓病学・高血圧性腎障害
- 准教授: 横山啓太郎 腎臓病学・透析療法・副甲
 状腺疾患
- 准教授: 小倉 誠 腎臓病学・透析療法
- 講師: 宮崎 陽一 腎臓病学一般・腎発生学
- 講師: 花岡 一成 腎臓病学・多発性嚢胞腎
- 講師: 池田 雅人 腎臓病学・透析療法
- 講師: 長谷川俊男 腎不全・透析療法
(神奈川県沙見台病院)
- 講師: 早川 洋 腎臓病学・腎不全・水電解
 質異常
- 講師: 石川 匡洋 腎臓病一般・高血圧
(川口市立医療センター)
- 講師: 小此木英男 腎臓病一般・高血圧
(神奈川県リハビリテーション病院)
- 講師: 横尾 隆 腎臓病学一般・腎再生
- 講師: 岡田 秀雄 循環器病学・高血圧
(神奈川県立沙見台病院)
- 講師: 寺脇 博之 腎不全・透析療法
- 講師: 坪井 伸夫 腎臓病学・腎炎・ネフロー
 ゼ症候群
- 講師: 大城戸一郎 腎臓病学一般・透析療法

教育・研究概要

I. IgA腎症についての臨床研究

当研究室が深く関与している, 厚労省の進行性腎障害研究班の「IgA腎症後ろ向き研究」の成果であるIgA腎症の新予後分類についての論文を発表した。また, IgA腎症に対するステロイド治療後の予後に関する研究も継続して行っているが, 治療1年後の尿蛋白(<0.4g/日)が, 長期予後に有意に関与しているという研究結果を報告している。現在, 扁桃摘出+ステロイドパルス療法とステロイドパルス療法のRCTに関しては, 論文投稿中であり, 「前向